

2023年12月25日<取材会レポート>

團十郎と新之助 御園座に親子揃って口上！

市川海老蔵改め十三代目市川團十郎白猿の襲名披露興行がいよいよ名古屋に。2月御園座で待望の幕を開ける。

八代目市川新之助も御園座に初出演。

12月25日東京都内で行われた取材会の模様をご報告



團十郎は「本日はお集まりいただきありがとうございます」。

新之助は「お寒中ありがとうございます。今日はよろしく願いいたします」と礼儀正しい挨拶。

さらに團十郎は、市川宗家の家の芸であり歌舞伎十八番屈指の人気作である『勸進帳』をはじめとした二月御園座大歌舞伎公演の演目に言及した。

「昼の部は歌舞伎が初めての方にも観やすいもの。夜の部は、歌舞伎好きの方々にも楽しんでいただける演目立てにできればと考えました。名古屋の皆様にも楽しんでいただけたらうれしく思います。

昼の部の『吉野山』はこれまでも、菊之助さんや雀右衛門のお兄さん、玉三郎のお兄さんなど様々な方とさせていただいている思い出のある演目です。



『吉野山』 佐藤忠信実は源九郎狐©松竹

『勸進帳』は市川團十郎家の家の芸で、京屋のお兄さん(中村雀右衛門)、菊之助さんとご一緒ですので、しっかりとした古典をお楽しみいただければと思っています」なお、同級生の菊之助さんに対しては「幼い頃から共に時を過ごしてきましたので、他の歌舞伎俳優にはない“あ・うん”の呼吸と申しましょうか、察することができる関係性がある」と語り、幼なじみならではの空気感が生まれることに團十郎自身も期待を寄せている様子。

一方の新之助は出演する『外郎売』について「昨年11月の歌舞伎座での初舞台の時からやらせていただいて、すごく好きな演目です。御園座に出演するのは初めてなので緊張しますが、お客様に楽しんでほしいです」と素直に話す。

そんな息子の様子に團十郎は「『外郎売』を極めてもらいたいので、名古屋で一区切りとなるよう徹底的に演ってもらおうつもりです」と語り、父であり師である顔をのぞかせた。

また、同時に團十郎は新之助のこの一年を「目覚ましく進歩した」と振り返り、「積み重ねてきた日々がちゃんと実となり、お客様にも通ずる芸風に少しずつなってきていると感じます。本人もやる気があるので、御園座でまた一つ階段を上ってもらえたら」と冷静に評した。



『勸進帳』 武藏坊弁慶＝市川團十郎
(撮影：操上和美)



『外郎売』 外郎売実は曾我五郎＝市川新之助©松竹

2022年11～12月の歌舞伎座に始まり、博多座、巡業、京都・南座での顔見せと続いてきた襲名披露興行。しかし團十郎も新之助もいまだに襲名して名が変わったことにあまり実感がないようで、兩人ともサインを書く時にやっと「團十郎なのだ」「新之助なのだ」と思うと会場を笑わせた。

一方「まだ海老の殻の付いている團十郎ですが、團十郎であることを実感する機会は増えました。ですので、荷も重く責任を感じることもあります」と本音を漏らす。

名古屋の思い出を問われると「いちばん思い出深いのは19歳の頃、中日劇場で玉三郎のお兄さんと『天守物語』に出演させていただいた時」と語り、当時91歳だった大俳優・島田正吾の逸話や、新人ゆえの苦労などを回顧。その時のことを團十郎は「向上心に火がついた、私にとっていい経験でした」と振り返った。

また新之助時代は御園座にも頻繁に出演。「音羽屋のおじさん(尾上菊五郎)や播磨屋のおじさん(中村吉右衛門)、私の父(十二代目市川團十郎)、さらには天王寺屋のおじさん(中村富十郎)や宗十郎さん、京屋のおじさん(四代目中村雀右衛門)がバリバリお芝居されているのを後輩として横で見ていた」と当時の貴重な経験を懐かしんだ。



新之助は「まだ御園座に出演したことがなく、新しくなった劇場を見たことがない」ので、あまり話ができないと言いつつも「京都には京都の伝統があるように、名古屋には名古屋の伝統があると思うので、その伝統を楽しみたいです」と笑顔で話した。

古典芸能の次代を担う存在から頼もしい言葉が聞けて、明るい希望を感じる取材会となった。

二月御園座大歌舞伎

1月10日(水)チケット発売

■開演／11:00／16:00※2/5(月)・2/13(火)は休演。

■料金(税込)／S席¥24,000 A席¥20,000

B席¥15,000 C席¥9,000 D席¥4,000

※学生料金 3,000円。

詳細は劇場ホームページをご参照ください。

■お問い合わせ／御園座 TEL052-222-8222

